

熊谷守一美術館 館長 / 画家

熊谷 榎
くまがい かが



「図書館の効用」

新しく東池袋に豊島区立の立派な図書館が出来たという。また今まで豊島区立の美術館はなかったのだが、池袋西郊に11月から豊島区立熊谷守一美術館が立上る。三〇〇へべに満たない本当に小さな美術館だが、内容は充実している。22年前に父の旧居跡に私が個人的に美術館を創っていたのだが、このたび美術館の全作品を豊島区に寄贈して、新しく豊島区立として始めるの美術館が出来たことは喜ばしい。

私の住まいのアトリエは神奈川県



豊島区

豊島区立中央図書館報

第3号 / 隔月刊

2007

図書館通信

トピックス

- 11月区立熊谷守一美術館オープン巻頭言 (熊谷榎館長) . . . 1ページ
- 生涯の冊 (白立フランク・テック / ロジー・住川社長) . . . 2ページ
- お店探訪・読書の愉しみ・豊島区伝統工芸 . . . 3ページ
- 1月22日特別講演会へ招待 . . . 4ページ
- 地域研究センター第3弾 . . . 4ページ

発行 ● 豊島区立中央図書館

東京都豊島区東池袋四一五一一

ライオンリーナビル四階 TEL03-3844-1111

電話 ● 03-3844-1111

FAX ● 03-3844-1199

ホームページ ● <http://www.library.toshima.tokyo.jp>

発行日 ● 平成19年11月



新航路 [2]

蔵書の充実

先ごろ行ったアンケート調査では、利用者の皆さんのほとんどが、蔵書の充実を望まれています。

「豊島区立図書館資料収集要綱」の第2条収集の基本方針では、「区民が求める資料を幅広く体系的に収集すること」「様々な思想・信条・学説・宗教・党派に対して、それぞれの観点にたった資料を公平かつ自由な立場で幅広く、各館で分担して収集すること」としています。

利用者の方にとっては、いつでもどの図書館でも読みたい本が読めるというのが理想だと思います。しかし現実には、限りある予算、収蔵量の限界があり、すべての図書を買ひ揃えることはできません。そのため現在は、分担収集という方法で可能な限り多くの種類の資料を揃え、相互貸借により他館での利用に供するよう工夫しています。

たとえば、各地域図書館では、郷土の歴史・文化関係の資料、社会生活に必要な資料や、余暇活動に関するものを集集し、中央では、それらに加えて高次の学習、文化、調査研究に必要なものを集めています。また、今後は、中央においては落語をはじめとした文化芸術関係書、地域においては、鉄道・園芸・赤い鳥・池袋モンパルナス関係書などそれぞれの地域と関連の深い資料も収集していくことになっています。

図書は、新刊として販売されたものを中心に毎週購入していますが、過去において購入できなかったものや欠落したのも買い足し、全体として調和のとれた中身の濃い蔵書にしなければなりません。たとえば一般書の分類別に現在の所蔵状況を見てみると、文学書が全体の約22%でも多く、次いで文庫新書が約14%、社会科学が約13%、この3分類で全体の半数を占めています。こうした状況が好ましいのか、好ましくないのか、バランスの視点から考える必要があります。また、各館で力を入れる分野、中央図書館では、高次の学習等に必要資料や文化芸術関係書の収集では、これまでのように専門職員に任せただけでなく、外部の各分野の研究者等の意見をきき、職員が参考とすることができるような仕組みを作ることも有効と思われます。そのうえで貸出状況など利用者のニーズを考慮して、目指すべき蔵書構成・蔵書内容を具体的に示した「蔵書計画」を策定する必要があると考えています。

Current & Encounter

「鍋木清方という画家」
豊島区図書館行政政策顧問
柏谷 一希

最近の三遊亭円朝ブームは、単に落語の世界だけでなく、ひろく語芸の世界・文芸の世界まで巻きこんでゆくようだ。そのせいか、あの円朝の肖像画を描いた鍋木清方の存在も改めて話題にのぼってくる。

そんなとき、近くのジジク堂で『鍋木清方文集』(全八巻・S出版社)を見つけた。自由価格本のコーナーである。全巻で一万円余り、やはり安い買物だ。このコーナーでは思いもかけない掘り出し物がある。発行所のS社は涙を呑む思いで在庫を手放したのであろう。もう少し円朝ブームに乗せられなかったものか、とも思ってしまう。こいう痛ましい残酷物語を、われわれは同業者として掘り出し物と喜んでばかりはられない。それにしても、需要と供給のチグハグは、もう少し工夫があってもよい。

じつは、鍋木清方については忘れがたい思いがある。昭和30年、私が中央公論社に入社した年に、鍋木清方はまだ御存命で、『中央公論』誌上に「こしかたの記」を連載中であつた。

当時は、目次を眺めてはんやりと記憶にとめた程度だったが、年々歳々、出版界の内情と歴史が解つてくるにつれて、その清方の連載がいかにも重々意味、貴重な価値あるものかを実感していった。総合雑誌には論文欄、創作欄の他に、「説苑欄」というのがあった。三田村鳶魚、森純三、村松梢風など、その説苑欄の常連であった。説苑欄は、俗稱、中説物欄。そこに雑誌の編集者の趣味が端的に表現される。

鍋木清方の「こしかたの記」は絶品である。のち、中央公論美術出版で書籍化されたが、その社長兼本和夫氏は、元中央公論社の専務で、池島信平、小林勇と同世代の、品格ある紳士であつた。

本のある風景



「本のある風景」写真の投稿を募集します。詳細は中央図書館企画調整担当へご連絡ください。電話 03-3983-7861



「ハチドリのはとしずく」
監修・辻 信一
(株)光文社

生涯の一冊 (2)



株式会社日立プラントテクノロジー
代表取締役 執行役社長
住川 雅晴

地球環境保護にも力を入れている日立プラントテクノロジー社は、区内では大塚阿波踊りの会場清掃「クリーン作戦」のボランティアで毎年協力してくださっています。

「ハチドリのはとしずく」
南米アンデス地方の先住民に伝わるお話を紹介します。最近ある会話を教わって読んだ「気になる冊」です。
森が火事になり、動物達が逃げ出したときに、クリキンディというハチドリだけは行ったり来たり、くちばしで水を滴すつ火の上に運んでいました。小さな一滴ですが、「一滴ずつ」と、「羽つつ仲間を増やすように」とほかのハチドリに伝えました。2回伝わると4羽が、3回伝わると8羽が、10回で1024羽が、40回で1兆羽以上のハチドリがやってくる、火事はあっという間に消えてしまいました。ともすると華やかさに目を奪われ、地道な活動を忘れがちな現代に、「私にできることをする」ことの大切さ、小さな積み重ねの偉大さを教えてくれる冊です。また、このお話は昨今の環境問題にも通

上池袋図書館がおすすめする本

「クリスマスの夜に読みたい本」

書名 『オー・ヘンリー傑作選』

著者名 オー・ヘンリー著 大津栄一郎訳
出版社 岩波書店
所蔵館 駒込・上池袋・池袋



この中にはオー・ヘンリーの暖かく優しい視点で書かれたお話がたくさん入っています。中でも、クリスマスに一番大事なものを売ってお互いにプレゼントしあう夫婦の物語「賢者の贈りもの」は有名ですね。クリスマスの夜にあなたもオー・ヘンリーの世界に浸ってみてはいかがでしょうか。

児童向け



書名 『ニッセのボック』

著者名 オーレ・ロン・キアケゴー/作
スベン・オットー/絵
枇谷玲子/訳
出版社 あすなる書房
所蔵館 中央・駒込・巣鴨・上池袋・池袋・千早

クリスマスが近づき、田舎のおじいちゃんの家にお百姓見習いに行ったぼく。12月1日からクリスマス・イブまでの毎日、ぼくとおじいちゃん、そしていたずら好きな妖精ニッセのボックの楽しいお話がつまっています。



書名 『34丁目の奇跡』

著者名 ヴァレンタイン・デイヴィス/著
片岡しのぶ/訳
出版社 あすなる書房
所蔵館 中央・駒込・巣鴨・上池袋

クリスマスの願いをかなえてくれるサンタクロースはいるのでしょうか? “見えなくてもサンタクロースはいる”と信じていることができれば、とっても素敵なことですね。クリスマスの夜に奇跡が起こる! そんな気持ちにさせてくれる物語です。



中央図書館

電子資料閲覧席・パソコン持込み席をご利用ください。

電子資料閲覧席では、インターネット閲覧、CD-ROM・DVD-ROM・データベースの検索、閲覧ができます。(10席)
パソコン持込み席では、ご自分のパソコンでインターネット閲覧などが出来ます。(16席)
それぞれ時間制限がございます。いずれもカウンターで利用カードを提示し受付を済ませてからご利用ください。



パソコン持込み席 ↑
←電子資料閲覧席

ボランティア紹介

図書館でボランティアとして、また自主的に活動されている皆様をご紹介します。

「子育てのつながり」

「手遊び」が始まった。子どもたちが目を輝かせ一瞬懸命真似をする。果鴨図書館で毎月おはなし会をしている伊東文子さんは、現役の保育士さんだ。最初に「手遊び」でコミュニケーションしてから「素ばなし」に入っていく。
伊東さんが、活動を始めたきっかけは、ある人との出会いによる。知り合いもいない夫の転勤先で3人の子どもを育てていたとき、近所のご婦人が何やかやと面倒をみてくれた。帰京の際、御礼を

申し出ると、その方はおっしゃった、「貴女が私の歳になったとき、若いお母さんを助けてあげて。そして、つながっていきましょう。」子育てが一段落した7年前、その時の言葉を思い出し「おはなし」の勉強を始めた伊東さん。「自分にできることでお返ししたい」と気負うことなくおっしゃった。
伊東さんのおはなし会は、11月14日(水)、12月19日(水) いずれも午後3時から巢鴨図書館地下会議室です。



特別展示のお知らせ

中央図書館では、あうるすぽつと柿落とし公演や図書館特別講演会に関連した図書・資料等の展示を行っています。ただいま『朱雀家の滅亡』、三島由紀夫関連の展示を行っています。4階特集棚、5階特別展示コーナーへお立ち寄りください。

新劇場あうるすぽつと開館 柿落とし2公演

海と日傘

夫婦の間にだけ流れる情愛を日々の暮らしを通して描いた、心に染み入る感動作。

10月30日(火)～11月11日(日)
出演 竹下景子 平田満 ほか
チケット 一般:5,000円 区民割引:4,700円
チケット発売中



平田満 竹下景子

チケットお問い合わせ

◇一般チケット
ぶれいずチケットセンター 03-5468-8113
(11:00～18:00 発売開始日以外は平日のみ)
◇区民割引・としま未来友の会割引
としまらいチケットセンター 03-3590-5321
(豊島区民センター2階)
※区民割引は窓口で証明書を提示してください。

朱雀家の滅亡

三島由紀夫の代表作を豪華キャストで。華やかな華族の一家を通じて生きる意味を問いかける。

12月4日(火)～12月16日(日)
出演 佐久間良子 窪塚俊介 中嶋しゅう 森田彩華 金田龍之介
チケット 一般:7,000円 区民割引:6,500円
前売開始:9月15日(土)



佐久間良子 金田龍之介

上演についてのお問い合わせ

あうるすぽつ 電話03-5391-0751
あうるすぽつホームページ
<http://www.owlspot.jp/>

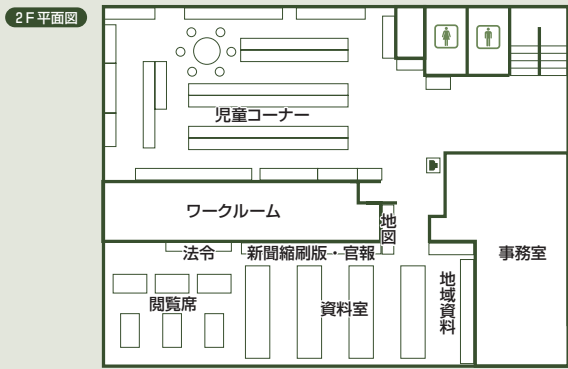
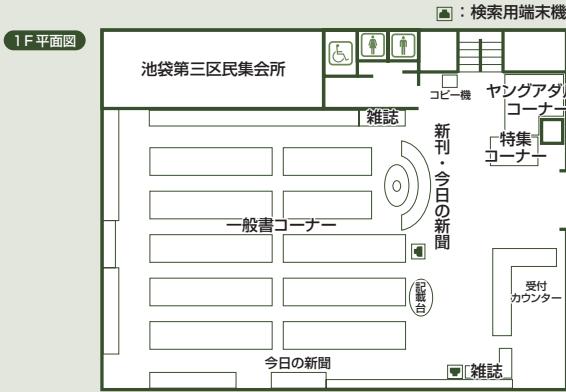
地域の図書館紹介「池袋図書館編」

池袋図書館は、昭和59年3月に(仮称)池袋二丁目地区図書館(現池袋図書館)及び公園用地(現池袋第二公園)建設事業用地として日本国有鉄道より購入し、昭和60年建築、昭和61年5月1日に開館された地域図書館です。

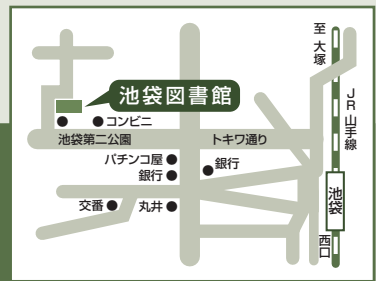
近くには、地域の民間団体が育てているお花畑があり、季節によって色鮮やかな花が咲き乱れ、白や黄色の蝶々が乱舞して人々の目を楽しませてくれます。春には桜がきれいな第二公園の樹木や地域の氏神である御蔵神社の緑深い大木がレンガ色の図書館を彩っています。

池袋の名称からか、中央館とよく間違えられますが、地階には、他の地域館には無い規模の閉架書庫(約2万4千冊蔵書)があり、図書保存機能の一翼を担っています。官報、都公報、新聞縮刷版や雑誌のバックナンバーが他の地域館より充実しています。

2階には、単独の資料室もあり当館の特長となっています。資料室には、参考図書を始めとして新聞縮刷版、官報、法令、地域資料等がそろっています。閲覧席もありちょっとした調べものや調査・研究に便利です。是非一度、お立ち寄りになり当館の特長もご利用の上、ご利用して頂くことを職員一同お待ちしております。



- 豊島区立池袋図書館
- 住所: 〒171-0014 豊島区池袋3-29-10
 - 電話番号: 03-3985-7981
 - 交通案内: JR池袋駅西口 徒歩15分
 - 閲覧席数: 56席



豊島区伝統工芸

豊島区伝統工芸保存会会員の皆様をご紹介します。



現代は、「きものを着る生活リズムが喪失された」と土田さんは愛う。確かに「きもの」は、日常に着るものというより、ゆ

東京手描き友禪の土田英彦さんの工房は、上池袋三丁目、明治通りから東京トモツトの路地を入った静かな住宅地にある。土田さんは、修業時代に洋画家の木谷俊に内弟子として入門した。木谷俊は多才な人で、日本画、油絵、墨絵、さらには書道、漢文にも通じていた。「絵だけでなく書も書けなければ」と、師は土田さんにさまざまな教養を授けた。



注文で羽織の裏地に描いた鯨魚

とりのある人が凝ったものを着る時代になった。そうした変化はきもの模様にも影響し、可憐な草花より、更紗や斬新な図柄を求めの人が増えてきているという。

最近、各地の花火大会で若い女性の浴衣姿をよく見かける。成人式や卒業式など、特別な日に「きもの」を着る人は確実に増えてきている。「そうしたことで、若い人が「きもの」に親しみ、その良さを感じてくれたら」と土田さんは切望する。

今年も11月8日から区民センターで豊島区伝統工芸品展が開催される。会場では、工芸士の実演も行われるので、ぜひ直に匠の技を見てもらいたい。

「雑司ヶ谷霊園と坂口安吾と」

先日、建築家の黒川紀章さんが亡くなって、氏の愛妻で女優の若尾文子さんがこの区内の巣鴨学園(上池袋一丁目)のすぐ前に住んでいた、という話を聞いた。映画にデビューしたところというから昭和30年代の初めころらしい。その道を大塚駅に向かった先に遠藤周作の生まれた家があった。

街あるきの楽しさは、こんな小さな発見にあるが、その発見の源泉はなんとも読書だ。

坂口安吾の「風と光と、干の私と」(22年新春号の雑誌「文芸」に発表。筑摩書房の全集04所収)は、「あの頃の私は...太陽の讃歌のやうなものが常に魂から現はれ流れていった」という、世田谷下北沢で小学

校の代用教員をしていた一年間を描いた健康な作品だが、この時期を「思いだすたびにうそのやうな」気持ちになるといふのは、前年の「随落画」や「白痴」で戦後の混乱期の教祖的存在となつた作家の、照れだろう。

安吾は、「田舎の中学を追い出されて」「護国寺隣りの豊山中学校に転校してきたが、「出席日数の半分はサボ」て、「学校の裏の墓地や雑司ヶ谷の墓地の奥の四人墓地といふ木立にかまれた」一段歩ほどの草原で「ねろんで来た」という日常だった。墓地には瘦もいて大騒ぎになったりする。この五年制の中学を出たのが「落第したり」したおかげで20歳。そして代用教員になった。昭和の初めころの話である。(伊藤榮洪)

読書の愉しみ

み店探訪 ~古書 往来坐~

<http://www.kosho.ne.jp/~ouraza/>

代表 瀬戸雄史さん



池袋には、圧倒的にここに「住む」お客様が多いです。

「池袋の西と南」

池袋駅東口から明治通り沿いにまっすぐ目白、新宿方向へ進み、最初のゆつくりとした下り坂が終わるあたりで古書往来座はあります。住所は南池袋3丁目、ここへ越してきてから3年半になりましたが、以前、8年半の間、西池袋1丁目で営業をしていました。

駅から近かつたせいもありですが、西口の東京芸術劇場のテナントだったときには、池袋で「働く」方々が、店作りをしてくれて、想定する主なお客様でした。目白、雑司が谷という大きな住宅街に面した南池袋には、圧倒的にここに「住む」お客様が多いです。

店が主体的に練る商品構成の方針とは別に、その地域に根差したお客様が感じ、その土地特有の風が吹くようなコーナーを作りたくて、雑司が谷霊園に眠る著名人を特集した棚と、池袋に関わる本を置く棚、そして店が西口にあった頃から興味があった池袋モナパルナスに関する棚を、設置しています。それらの特殊な部分について一番多くを教えて下さるのが、やはりその地に水く住むお客様たちです。

近現代の日本文芸を主に、とりとめのない人文系書籍全般を扱っておりますが、池袋の西と南、一箇所の空気に多少なりとも触れたことが、店に流れる時間のふとした隙間で、こちらの強みになっています。

特別講演会へご招待

無料 平成20年1月22日(火)午後4時~6時30分 会場「あうるすぽっと」
募集280名 講演会の受講をご希望される方は、下記の申し込み方法をご覧ください。

今回は、丸谷・渡辺両氏の講演を2本続けてお楽しみいただけます。

丸谷氏は「ことば」について、渡辺氏は「江戸遊里ダンディズム」—『色道大鏡』の世界をテーマに講演していただきます。

図書館からの
お知らせ



小説家
丸谷 才一氏
まるや さいいち

プロフィール
小説家。東京大学英文科卒、ジェイムズ ジョイスの影響を受ける。『コリシース』の共訳、評論『後鳥羽院』など翻訳・評論でも多才な一面を見せる。著書に『笹まくら』『横しぐれ』、受賞祝賀会などさまざまな場面でのおいさつを1冊にまとめた『挨拶はむづかしい』ほか。文芸雑誌などの文章では歴史的仮名遣を用いることで有名。随筆の達人としても名高い。



立教大学教授
渡辺 憲司氏
わたなべ けんじ

プロフィール
立教大学文学部日本文学科教授。日本近世文学専攻。江戸時代の風俗を研究し、氏を代表とする刊行会が江戸初期の全国の遊郭を踏破して刊行した『新版色道大鏡』は、近世風俗の基本図書として研究者や作家に絶賛されている。ほかに著書として『江戸三〇〇年吉原のしきたり』、『江戸遊里盛衰記』、『近世大名文芸圏の研究』などがある。

図書館イベント情報

各地域図書館の連絡先

- 駒込図書館 3940-5751
- 上池袋図書館 3940-1779
- 千早図書館 3955-8361
- 巣鴨図書館 3910-3608
- 池袋図書館 3985-7981

◆ 児童・あかちゃんおはなし会 毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てください。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント	
	幼児・小学生	あかちゃん	11月	12月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 2時	準備中	★4日・おはなしこうさく会 工作 2時	★9日・冬のおはなし会スペシャル 2時
駒込図書館 (駒込地域文化創造館)	土曜日 3時	—	—	★22日・おはなしのはこ クリスマススペシャル 3時 スライド、パネルシアターなど
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 3時	最終水曜日 11時	★14日・おはなし会スペシャル 3時 ★21日・パネルシアター 3時 ★28日・スライド 3時	★19日・冬のお楽しみスペシャル 11時 3時 26日のほんのじかんはお休みです。
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 3時	最終水曜日 11時※	★28日・さくらんぼえいがかい 3時※ 「くまのおいしゃさん」(22分) 「ミッキーマウスのたのしいゆめ」(9分)	★12日・さくらんぼクリスマス会 パネルシアターなど 3時※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 2時	—	★24日・たんぼえいがかい 2時 「いたずらあまんじゃく」(23分)	★15日・たんぼクリスマスかい ★22日・たんぼえいがかい「くまのおいしゃさん すてきなコンサート」(23分)
千早図書館 視聴覚室	水曜日 3時30分	水曜日 10時30分	—	★19日・ほんとおはなし会スペシャル クリスマス会 3時30分

※日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

地域研究ゼミナール 受講生募集

豊島区に関係の深いテーマについて、図書館の資料を活用し学びながら、自分の研究テーマを探るゼミナールを開講します。

第三弾は「豊島区周辺の落語文化」

講師 水谷千尋(みずたに ちひろ)氏(豊島区図書館専門研究員)

※水谷千尋氏からのメッセージは図書館通信創刊号をご覧ください。

- 日程 全3回 第1回 20年1月26日(土) 豊島の落語寄席文化—大塚住人、作家正岡容が果たした役割
- 第2回 2月23日(土) 近代落語の祖 三遊亭圓朝の人と作品—坪内逍遙から正岡容・太宰治まで、圓朝人情漸の近代文学への影響
- 第3回 3月 8日(土) ① 圓朝作『乳房樓』作品研究—雑司が谷南蔵院天井画怪談漸の周辺、その意味を探る。
② 今後のゼミナール・テーマ等意見交換

時間 午後2時~4時

会場 中央図書館会議室

費用 1,400円(雑誌『東京人』『三遊亭圓朝』特集号など資料代) ※会場への交通費などは各自負担です。

募集 30名 ゼミナールの受講を希望される方は、右下の申し込み方法をご覧ください。

ビジネス支援講演会

としまものづくりフォーラム

第2回 テーマ「老舗企業からのメッセージ」

【日時】平成19年12月12日(水) 19時~21時

【講師】亜細亜大学経営学部教授 横澤 利昌(よこざわ としまさ)氏



横澤 利昌氏

第3回 テーマ「工業高校の役割」

【日時】平成20年1月16日(水) 19時~21時

【講師】東京都立北豊島工業高校 総合技術科長 丸茂 聡(まるも さとし)氏

【会場】あうるすぽっと会議室B 【定員】100名 【費用】無料 【申込】当日直接会場まで

【主催・問合せ】豊島区文化商工部生活産業課商工政策係

電話：03-5992-7089/FAX：03-5992-7088/Eメールアドレス A.0014205@city.toshima.lg.jp

＜参考資料＞

■ 横澤利昌教授 主な著書・論文

「ホスピタリティとフィランソロピー」(名東・山田・横澤編著)、税務経理協会、1994年 / 「老舗企業の研究—100年企業に学ぶ伝統と革新—」(編著)、2000年 生産性出版 / 「セカンドライフデザイナーワークシートでセカンドライフをデザインする—」(共著)、桜出版、2006年 / 「顧客価値経営」(荒田弘司 他著 横澤利昌編)、1998年、生産性出版 / 「戦略計画の実行」(ピーター・ロランジ編 横澤利昌・木谷正明訳、1984年 ホルト・サウンダース・ジャパン)

各種申し込み方法

※ 申し込み方法は2種類です。

※ ひとつの行事に重複して応募された場合、2枚目以降は無効です。

※ 応募者多数の場合は抽選となりますので予めご了承ください。

※ いずれも申込期限後1週間程度で当落の通知をします。

1 往復はがきにて①~⑥を記入し下記送付先へお送りください。

(はがき1枚につき1件の申込みをお願いします。)

① ご希望の講演会名・ゼミナール名

「1/22講演会」

「地域研究ゼミナール落語」

② 郵便番号

③ 住所

④ 氏名(ふりがな)

⑤ 電話番号

⑥ 希望人数 1名または2名(講演会のみ)

◆ 申込期限 講演会、ゼミナールとも12月14日(金)消印有効

◆ 送付先：〒170-8442 豊島区東池袋4-5-2

ライズアリーナビル5階

中央図書館 企画調整担当

2 電子申請でも受け付けます。

豊島区ホームページアドレス <http://www.city.toshima.tokyo.jp>

図書館カレンダー

中央図書館

開館時間
平日10~22時
土日祝10~18時

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
11	5	6	7	8	9	10
11	11	12	13	14	15	16
11	17	18	19	20	21	22
11	23	24	25	26	27	28
11	29	30	31			
12	1	2	3	4	5	6
12	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18
12	19	20	21	22	23	24
12	25	26	27	28	29	30
12	31					

駒込・巣鴨・上池袋・池袋・千早図書館

開館時間
平日9~19時
土日祝9~17時

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
11	5	6	7	8	9	10
11	11	12	13	14	15	16
11	17	18	19	20	21	22
11	23	24	25	26	27	28
11	29	30	31			
12	1	2	3	4	5	6
12	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18
12	19	20	21	22	23	24
12	25	26	27	28	29	30
12	31					

○は土日祝 ●は休館日

雑司が谷図書館貸出コーナー

開館時間
平日10~19時
土日祝10~17時

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
11	5	6	7	8	9	10
11	11	12	13	14	15	16
11	17	18	19	20	21	22
11	23	24	25	26	27	28
11	29	30	31			
12	1	2	3	4	5	6
12	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18
12	19	20	21	22	23	24
12	25	26	27	28	29	30
12	31					

目白図書館は建物の老朽化に伴う改修工事のため、平成19年9月1日(土)~平成20年9月初旬(予定)の間、休館します。

編集後記
今号の編集会議で、委員からさまざまな苦言を頂戴しました。委員は執筆や編集のプロなので、役所ことばは丸出しの素人の書くものなど、「読む気にならない」と言われガツガツ…全文書き換えたものもあります。そんな今号はいかがでしたか。読者の皆様の声をぜひお聞かせください。(真)